

令和7年度 下段地区町政懇談会

開催日時 令和7年11月14日(金) 午後7時～午後8時

開催場所 下段公民館

出席者 立山町 舟橋町長、杉田副町長、清水総務課長、水上健康福祉課長、
林住民課長、佐伯農林課長、野田建設課長、寺崎課長補佐
下段自治振興会 田村 淳会長
企画政策課 瀬本課長、柳田課長補佐、山本係長、富崎主任

参加者数 56名（うち町職員7名）

1 挨拶

町長 挨拶

田村会長 挨拶

2 懇談会

(1) 町からのお知らせ（建設課より説明）

①空き家等の対策について

(2) 質疑応答

●空き家バンクに登録した場合、固定資産税はどうなるのか。

(企画政策課長)

空き家バンクに登録しても所有権は移らないので、固定資産税は引き続き所有者に課税されます。

●これまで代執行は何件実施したのか。費用はどのように負担したのか。

(建設課長)

特定空家に係る代執行は、所有者不明の物件で8件実施しました。国の補助金1/2を活用し、残り1/2は町が負担しています。

(3) 地区協議事項

1. 県道立山水橋線(通称:相塚線)の日俣地内の道路拡幅工事、歩道設置工事の計画進展状況と工事予定日程について

(建設課長)

県道立山水橋線について、道路を所管する県立山土木事務所に確認したところ「日俣地内の歩道整備については、現在(令和7年11月)、北側区間(県道交差点～町道日俣団地8号線付近 L=280m)の用地測量を実施しているところであり、用地測量の完了後、順次用地補償を進める予定としております。また、来年度以降となりますが、用地補償の進

捗に応じて、地元のご協力をいただきながら、工事に着手できるよう努めてまいります。」とのことでした。

町としても県に対し、重点事業として強く整備を要望しているところであり、道路用地の確保について、地区からも地権者への働きかけをお願いいたします。

2. 下段保育所の今後の存続計画について

(健康福祉課長)

これまで、町内保育所のあり方については、保育所の統廃合に加え、存続する場合であっても民間委託を基本としてきました。

大日町保育所と大森保育所を廃所とし、みどりの森保育園を建設、また、新川保育所の老朽化による廃所を見据え、あおぞら保育園、さらに、かがやき保育園を建設し、公設民営化を行ってきた経緯があります。また、延長保育など多様化する保育ニーズに対応するため、民間活力を導入してきました。

町公共施設等マネジメント計画（平成29年3月策定）では、人口動向や乳幼児数、施設の老朽化等を勘案し町立保育所を4か所程度に統合するという方針とともに、個別施設の方針として、下段保育所については、平成35年度、つまり令和5年度末までを目標として廃所予定とすると明記してあります。

一方、下段保育所の令和7年度当初の入所希望児童数は53名であり、一定数の入所希望があります。

また、発達が気になるお子さんの入所については、小規模かつ公立の保育所を希望される方もいらっしゃるのが事実であります。

とはいえ、施設自体が老朽化していることから、今後、下段保育所の耐用年数を見極めながら、廃所時期について再検討してまいりたいと存じます。

これまで、地域の保育所として温かく見守り、ご支援いただいております心より感謝申し上げます。再検討については、地域の皆さんや保護者の皆さんのご理解を得ながら進めてまいりたいと考えておりますので、お力添えのほどよろしくお願いいたします。

3. 近年多発する鳥獣被害防止（特にクマ、サル）と、住民への安全対策について

(農林課長)

まず、サルにつきましては、本年5月から7月にかけて、下段地区を含む町中心部に、はぐれザル1頭の出没が頻発し、地域の皆様にご心配をおかけしたところです。

町はサル対策として令和7年度から立山町鳥獣被害対策実施隊のニホンザル捕獲処理費の引き上げを行うとともに、集落等に爆竹やロケット花火の配布や電動エアガンの貸出しを実施し、サルの捕獲や追い払いが充実するよう取り組んでおります。

またクマにつきましては、令和7年度はブナなどの木の実が全国的に不作のため、立山町においても住宅地にクマの目撃や痕跡が相次いでいる状況です。クマの目撃情報等が寄せられた場合は、速やかに住民に対し防災無線やSNSによる情報発信を行うとともに、町鳥獣被害対策実施隊や上市警察署等と協力し、パトロールや花火による追い払い、クマ檻による捕獲に取り組んでいます。

クマ対策としては、これらの取組を行うとともに、緊急の場合には、本年9月より開始された緊急銃猟制度（一定の条件を満たした場合に市町村長の判断により銃猟を行う制度）にも速やかに実施対応できるよう、10月22日に谷口体育館で緊急銃猟の訓練を実施しました。

地域住民におかれましては「クマつぶ」や「とやまポリス」等のアプリを活用するなど、クマが出没する期間は町や警察からの情報を確認するとともに、早朝や夜間の外出の際は、音の出るものを身に着けるなどの対策のご協力をお願いいたします。

また、クマを寄せ付けない環境づくりのため、柿等の放任果樹の伐採等に補助金を交付しています。伐採に要する消耗品や委託料などに対し 1/2 を補助するもので、上限は 7,500 円です。町内会単位でまとまっていただき申請してください。令和 8 年度もクマの出没が多くなるのではないかと予想されています。果樹の伐採については、実がなる前に検討いただきますようお願いいたします。

(4) 意見交換

●道路拡幅工事について

(1) 県道立山水橋線の拡幅工事を予定している場所について

(2) 以前、拡幅工事について振興会から県土木事務所に要望書を提出した際、地権者の同意書も併せて提出したが、当時、同意を得られなかった地権者もいた。その後、どうなったのか。

(3) 県道富山立山公園線の来年度の工事予定箇所について
耕作する田んぼとの関係もあるのでわかる範囲で教えてほしい

(建設課長)

(1) 県道立山水橋線の拡幅工事実施場所は、県道交差点から南方向へ、約 280m の区間です。

(2) 地権者との交渉について、県立山土木事務所で折衝しており、継続中と聞いています。できるところから土地の購入を進め工事に着手すると聞いています。

(3) 県道富山立山公園線について、現在、坂井沢のローソンから南側を整備しており、計画的に進めると聞いています。来年度の実施箇所について県立山土木事務所に確認したところ、ローソンとの用地調整が進んでいるため、来年度は交差点付近を実施する予定であり、数年かかると聞いています。

●地鉄立山線存続について

(1) 現在の進捗状況、町の負担金について

(2) 黒部ダムについて、大町側からも立山町側からも観光客が多いと思うが、地鉄と立山黒部アルペンルートをセットにして、観光PRしてはいかがか

(町長)

(1) ご存じのとおり富山地方鉄道株式会社としては 11 月末までに行政の支援の方向性が見えなければ、立山線については、岩嶽寺駅以降について廃線の届け出し 1 年後に廃線する、と報道されました。

立山線と不二越上滝線については、富山市と分科会において協議を続けています。

富山地方鉄道株式会社としては、岩嶽寺駅までは存続の意向を示していますが、岩嶽寺駅から立山駅まで、特に千垣駅、本宮駅から立山駅までは山あいを縫うように線路が走っており、冬は雪崩、大雨の際は落石の危険が多いことを心配しておられます。

4 月からの観光シーズンは、午前中だけで 8 本の電車で立山駅まで観光客を輸送しているのが現状であり、その観光客を岩嶽寺駅からバスで代替輸送することは難しいと考え、富山県や富山市にも説明し、立山線の存続について話を進めています。

協議を進める中で、斜面防災については、農林水産省の治山事業、国土交通省の砂防事業として県で対応してもらおうことになり安心しているところです。

今日の時点でお答えできることは限られていますが、少しでも町の費用負担が減るよう考えているところであり、調査の結果も含め、決まりましたら報道発表いたします。

(2) 黒部ダムには年間 80 万人が訪れており、その 1/4 は大町市から黒部ダムまでの利用

と聞いています。観光客に通り抜けしてもらうことは立山町にとっても大町市にとってもメリットがありますので、立山町・大町市・関西電力・立山黒部貫光の4者で構成している協議会でも連携しながら、通り抜けによる観光を推進してまいります。

●下段保育所の存続について

(1) 廃所することになったら、保護者への説明はいつ行うのか

(2) 12月の途中入所について

(3) 立山町の待機児童ゼロと公表されていることについて

(町長)

(1) 廃所時期については、現時点で決まっていません。廃所を検討する際には、入所中のお子さん等に配慮し、すぐに廃所するのではなく、ある程度の期間を設けてご案内いたします。

こどもの数は減っていますが、発達が気になる子は増えています。民間保育所では受け入れられない場合があり、町立保育所の役割が求められている現状もあります。

(2) 0歳から預けたいという家庭が増えていますが、0歳児3人に対して保育士を1人配置しなければならないという国の基準があります。保育士の確保ができない場合など、年齢によっては途中入所できないケースもあります。

(健康福祉課長)

(2) 下段保育所については、定員70名に対して、年度当初の入所希望は53名、途中入所を含め現在は61名が入所しています。定員に達していませんが、お子さんの特性や必要な保育士数、入所児童が安全に過ごせるか等、途中入所の受け入れ可否については、総合的に細かく審査しております。審査の結果、下段保育所の12月の受け入れ可能数が0となりました。

町内の他の保育施設の状況及び月によって受け入れ可能かどうか異なりますので、個別にご相談ください。

(3) 保育所ごとではなく、町全体で他に受け入れ可能な保育施設があれば、町としての待機児童はいないという整理をしております。

●自然環境の変化が、住宅地へのクマ・サルの出没の原因になっているのか

(町長)

住宅地にクマが出没している原因の一つとして、山に管理できていない杉の木が多く、どんぐりなどの広葉樹が少なくなっていることが挙げられると思われます。林野庁も把握しており、なるべく早く国策で杉の木の伐採を進め、実のなる木と混合するべきであると考えております。山林協会に属しており、今後も働きかけていきます。

また、町では、令和5年6月28日の豪雨によって林道が被害を受け、現在も開通していないところがあります。この影響で、間伐が進んでいない箇所もあるので、林道復旧作業を早く進めたいと考えております。

サル出没については、里山に人が減ったことが原因のひとつと考えており、まずは、個体数を減らすところから対策が必要であると考えております。捕獲処理費として報奨金もありますので、ご理解ご協力をお願いいたします。

●町で地籍調査を実施した際、測量し直した図面を確認することになっていたが、その後どうなったか。

町から払い下げにより取得した土地について、確認したい。

(町長)

登記簿等資料があると思いますので、建設課で調べます。建設課に個別にご相談ください。

3 閉会

坂井議員 挨拶

広島議員 挨拶

終了